



須坂市立小山小学校だより

令和5年11月27日

橋の子だより

橋の木のように 深く根を張り 幹太く 枝葉豊かな人

No.7 文責：教頭

須坂市立小山小学校

「秋のなかよし月間」

(11月22日校長講話より)

11月15日にメセナホールで行った150周年記念音楽会・記念式典はとても素晴らしかったです。来賓の方からもお褒めの言葉をいただきました。

11月は「秋のなかよし月間」です。さて、みなさんは、この言葉を聞いたことがありますか。



「口」は、人をはげます言葉
やかんしゃの言葉を言うために
使おう

「目」は、人のよいところを見
るために使おう

「耳」は、人の言葉を最後まで
きいてあげるために使おう

「手足」は、人を助けるために
使おう

「心」は、人のいたみがわか
るために使おう

今日はこのことに関わるお話をします。

これは、腰塚 勇人（こしづか はやと）さんの言葉です。なぜ、こんなことを感じたのか、腰塚さんのお話を紹介します。

腰塚さんは、大学卒業後、「天職」と思えた中学校の体育教師になりました。学級担任、バスケット部顧問として「熱血指導」の日々を送っていました。

2002年3月1日、人生を大きく変える事故が腰塚さんの身に起こりました。

スキーでの転倒で首の骨を折り、奇跡的に命は取り止めたものの、首から下がまったく動かなくなったのです。当時、医師からは「一生、寝たきりか、よくて車イス」の宣告を受け、あまりに絶望し、死のうとしました。

その後、妻、両親、主治医、看護師、生徒たち、職場の同僚などの応援と励ましを受け、「自分の命があらゆるものに助けられ、生かされていること」に気づき、「笑顔」と「感謝」と「周りの人々の幸せを願う」ことにより、奇跡的な回復力を発揮しました。

そして、下半身と右半身の麻痺など、身体に障がいを残しながらも、4ヵ月で現場に復帰し、中学3年生の担任を務めました。

主治医からは「首の骨を折って、ここまで回復した人は、治療した中では腰塚さんだけだ」と言われるほどの「奇跡の復活」を遂げたのです。

周囲の人の支えによって、ありのままの自分を大切に、チャレンジし、「命が喜ぶ生き方」を求めるまでに立ち直りました。はじめに紹介した言葉は、こうした人生を経て腰塚さんが語った言葉です。

- ・笑顔は、人を幸せな気持ちにしてくれる。
- ・失敗は悪いものではなく、夢にまた一歩近づき、成長したしょうこ。
- ・「失敗」の反対の言葉は、「成功」ではなく、人のせいや言いわけをしてにして、「なにもしなくなること」
- ・人は決して一人じゃない。必ず応援してくれる人がいる。

「みんな笑顔でひとりひとりが大切にされる小山小学校」をつくりましょう。

ありがとうなどの温かなことば、温かなまなざしを大切にしましょう。



※「命の授業」で検索すると、腰塚さんの動画を観ることができます。お子さんと一緒にご家庭でも視聴してみてください。

<保護者・地域の皆様へ>

150周年記念音楽会・記念式典にご協力いただき、ありがとうございました。保護者の皆様には、児童の送迎やお弁当の準備、楽器運搬等をしていただいたり、PTA 役員の皆様には事前の打ち合わせを経て、当日分担のお仕事をしていただいたりしました。多くの方の協力を得て、小山小の誕生日を祝うことができました。まさに、記憶と記録に残る1日になりました。



学校名柱は、旧本校教員の上原様の書だよ。掲げられるときに楽しみだね。

ホルン奏者の水野様は本校出身です。すてきな演奏でしたね。

